



令和6年度実施計画（事業計画書）

令和6年1月31日

浜松科学館指定管理者
乃村工藝社・SBSプロモーション共同事業体

目次

1. 事業の基本方針		
(1) 管理運営の方針	2
(2) 使命・目標	3
2. 科学館事業計画		
(1) 常設展の運用	4
(2) 科学学習情報システムの運用	4
(3) 特別展及び企画展	5
(4) 参加型学習	5
(5) プラネタリウム	6
(6) 夜の科学館	9
(7) 学校等との連携、協力	9
(8) 関係機関等との連携、協力	10
(9) ボランティア活動支援	11
(10) 調査・研究及び収集・保存、ドキュメンテーション	11
(11) パブリックリレーションズ	12
(12) 利用者調査とその活用	13
(13) 常設展示更新事業	14
3. 経営管理計画		
(1) 開館日及び開館時間	16
(2) 利用料金	16
(3) 年間目標	17
(4) 管理運営体制	17
(5) 受付案内	19
(6) 施設貸出	20
(7) 施設維持管理	20
(8) 安全管理	22
(9) 収支計画	24
4. 自主事業計画		
(1) 必須の自主事業	25
(2) 任意の自主事業	26

1 事業の基本方針

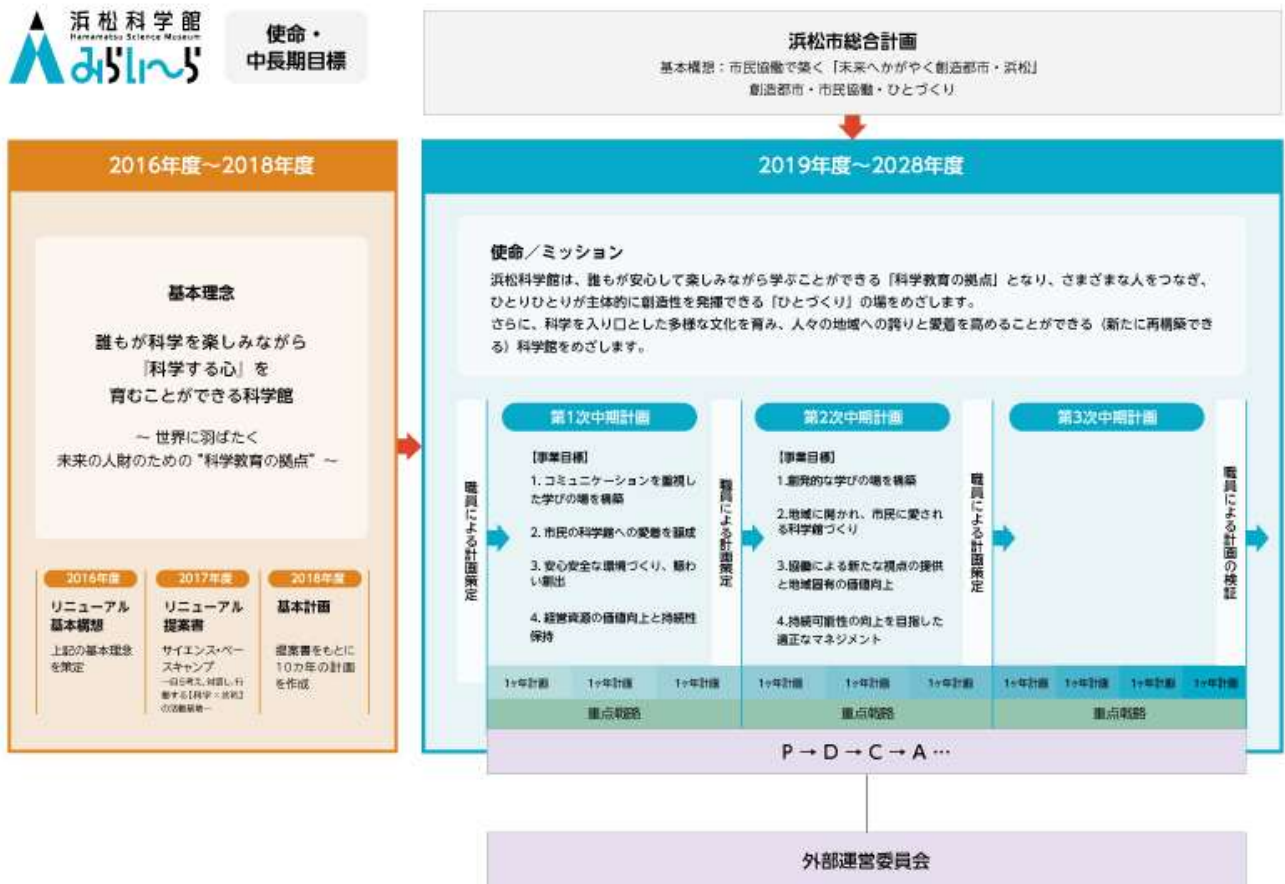
(1) 管理運営の方針

浜松科学館は、昭和 61 年に開館して以来、38 年の歴史を有する施設です。令和元年からは、10 年間の DBO 方式（※）によって、常設展の全面更新やプラネタリウムの機器更新等の施設整備を行い、長期的スキームで運営の変革に取り組んでいます。開館当初は青少年の育成を目的としていましたが、科学館を取り巻く社会状況や時代の変化に対応して、多様な学びのかたちを取り入れながら、幅広い層の利用者の体験や交流に基づく創造的な生涯学習施設への転換を進めています。

浜松市総合計画に示されている「浜松市未来ビジョン—市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」で、科学館は文化・生涯学習分野の拠点の 1 つとして位置づけられており、創造都市政策推進の一翼を担っています。浜松科学館の価値をさらに高めていくために、職員自ら使命・目標を定め、本年度から始まる展示更新事業にも取り組んでいます。この計画書は、第 2 次中期計画に基づき、令和 6 年度の事業の体系をまとめた実施計画（事業計画）の位置づけとなります。

※浜松科学館の DBO 方式とは、民間事業者に、展示設計（Design）・展示製作施工（Build）・管理運営（Operate）を一括して委ねる公設民営方式です。展示と運営を統合した事業展開で効率性を高め、長期的観点で学びの場の拡充を目指して、乃村工藝社・SBS プロモーション共同事業体が受注しています。

浜松科学館の計画・評価の体系



(2) 使命・目標

『浜松科学館 第2次中期計画（3 か年／2022 年度～2024 年度）』に基づき、運営者（指定管理者）として目指すべき10年間の使命・目的と3か年の事業目標を定めています。

使命（ミッション）

浜松科学館は、科学を入り口とした多様な文化交流を通して人々をつなぎ、地域への誇りと愛着をもとに、創造都市を牽引する科学館となることを目指します。

さらに、誰もが科学を楽しみ、安心して学ぶことができ、ひとりひとりの好奇心を育む場として地域に開かれた科学館となります。

事業目標

1 創発的な学びの場を構築

浜松科学館は、多様な利用者それぞれに向けた科学教育のコンテンツを自ら作り上げ、コミュニケーションを重視した創発的な学びの場を構築します。

2 地域に開かれ、市民に愛される科学館づくり

浜松科学館は、公共施設として利用者だけではなく地域全体に開かれた場をつくり、職員が地域と積極的に関わりをもち、市民に愛される科学館となります。

3 協働による新たな視点の提供と地域固有の価値向上

地域固有の価値を高めるために、さまざまなパートナーと協働することで浜松科学館ならではの新たな視点を提供していきます。

4 持続可能性の向上を目指した適正なマネジメント

浜松科学館は、施設の持続可能性を向上させるため、設備やコンテンツ、人的資源を適正にマネジメントし、独立性の高い経営を行います。

展示更新事業のビジョン

令和6年度は指定管理業務の6年度目となり、これまで蓄積してきた運営経験を最大限活かし、展示更新事業をテコとした新たな学びの場作りに挑戦します。運営者自らが展示更新基本計画（※）を策定し、**〈自由に楽しみ、面白そうがあふれる広場〉**をビジョンとして、来るべきSociety5.0における教育・人材育成構想に対応し、探究力や意欲をもって主体的に学ぶ力を育むことができる科学館を目指します。浜松科学館は、あらゆる人に開かれ、それぞれが自由に楽しみ、交流する空間（広場）をつくることで「フィジカルな場としての価値」を生み出していきます。

※『浜松科学館 展示リニューアル 2024/2026 基本計画書』（令和5年8月）

2 科学館事業計画

(1) 常設展の運用

常設展を活用したさまざまな体験を通して、来館者が科学を楽しみ、もっと知りたいという探究心をもてるような運営を行います。スタッフが来館者の視点に立ち、新たな気づきや発見を得られる学びの場をつくれます。

① 展示ストーリーブック

常設展の背景にある地域の特性（風土や産業史等）と、展示アイテムとの繋がりを、1つのストーリーとして解説しています。ウェブサイトからのダウンロードにより利用者に提供し、必要に応じて年度ごとに内容を更新していきます。

② コミュニケーションツール

子供と保護者が一緒に展示を体験するためのツールを提供します。ワークブックを用いて、展示の適切な使い方を誘導しつつ、同伴者とのコミュニケーションを促し、気づきや疑問を引き出すことを狙うものです。館内を謎解きで巡り、毎年好評となっているワークブック『さがしてためしてみらいーら』の第3弾を中2階「ゆめたまご」にて頒布します。

③ 団体利用向けワークシート

団体で来館する児童生徒を対象としたワークシートを運用しています。科学館のウェブサイトからダウンロード可能です。利用者の声を聴きながら、新たなワークシートの作成、内容の充実を図ります。

④ 展示運用マニュアル

展示運用マニュアルによって科学館スタッフおよびボランティアスタッフの対応の質を向上させます。展示アイテムの効果的な運用方法を適宜更新し、来館者が気づきや発見を得られるよう工夫します。



(2) 科学学習情報システムの運用

科学館内での体験の質を高めるとともに、各個人の体験の記録を残すことで発展的な学びにつなげます。端末を所有していない来館者や学校等の団体には、タブレット端末の貸し出しも行います。

◆ デジタルデバイスの活用による展示空間での学びの拡張

スマートフォンアプリを使用することで、展示に関連した科学的な事象についてより発展的な情報を得ることができます。また、展示アイテムで作成した写真や音声データを持ち帰る機能をもたせ、振り返り学習を促します。科学に関連したクイズにチャレンジできるキオスク端末（ベースステーション）を展示室の5か所で運用します。



◆ 人工知能を用いた自動会話プログラム「コンパス君」

チャットボット（人工知能を用いた自動会話プログラム）「コンパス君」を運用します。「コンパス君」は、来館者の質問に対して単に答えを返すのではなく、疑問を引き出したり、次の学習行動（別の展示を見る、調べる等）を促したりする役割を担います。

◆ 体験履歴の蓄積と、体験ポイントの付与

アプリあるいは IC カード（みらいーらカード）を用いると体験ポイントが付与されます。利用者の再来館を促すほか、獲得したポイント数に応じて、オリジナルグッズや特別体験の機会を提供する特典を設けます。科学館のウェブサイト上からログインできる会員ページでは、館内または帰宅後に、貯めたポイントの照会や体験履歴の確認などができます。

（3）特別展及び企画展

年間を通じて集客を平準化させ、来館者の体験の質を高めることを目指し、特別展及び企画展を年 4 回、実施します。コンテンツは科学館スタッフが内製することを基本とし、館の常設展や資料等の充実にも繋がります。さまざまな体験によって幅広く科学を楽しむことができるようにワークショップ等を組み合わせて、主体的な学びの機会を拡張します。

◆ 令和 6 年度のスケジュール

夏季、春季等の学校休業期間にあわせて、以下のスケジュールで予定します。

名称	開催時期	実施内容
夏の特別展 「科学×アート 仕掛け絵本を楽しもう （仮）」	7 月中旬～8 月末	「仕掛け絵本」をキーワードに、絵本に使われる物理的な機構や光の原理などを解説したり、自然・宇宙・物理科学などをテーマにした絵本を紹介したりと、STEAM 教育を主題とした体験的な場を提供します。
秋の企画展 「科学の学園祭 2024」	10 月上旬～10 月下旬	「自由に研究ラボ」のパネル展示や、浜松市の高校、大学、専門学校、学習センター、科学館ボランティアなどによる科学活動の発表の場を設け、来場者と学生、また学生同士のサイエンスを介した交流の場とします。
冬の企画展 「みんなで熱中！ものづくり 2024」	12 月中旬～1 月上旬	コンテストを通じたものづくりのプロセス（思案・開発・制作・検証・仕上げ等）の体験で、ものづくり面白さ、奥深さを発見する場を提供します。
春の特別展 「新幹線の進化と中身～東海道新幹線 開業 60 周年記念事業～（仮）」	2 月～3 月（仮）	東海道新幹線開業 60 周年を記念して、東海道新幹線の進化・社員の紹介などのパネル展示、「リニア・鉄道館」の展示物の複製・新幹線の部品やカットモデルの展示、講演会などを計画しています。 共催：東海旅客鉄道株式会社（JR 東海）

（4）参加型学習

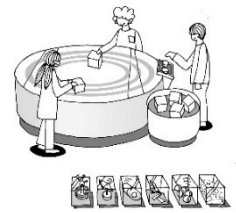
スタッフが内製化した参加型学習のプログラムを毎日開催します。内容の難易度や主なターゲットとなる年代に応じて、入門編、発展編①、発展編②の 3 つの区分を設け、幼児からシニアまで幅広い世代が参加できる学びの機会を提供します。

入門編

来館者が科学に親しみ、足を運ぶ動機づけとなるよう、「いつ訪れても」「予約なしで」「館内のいろいろな場所で」という方針で実施する、参加型学習の入門編です。また、子供と保護者に一緒に参加してもらうなかで、家でできる実験などを紹介し、家族で科学を話題にするきっかけをつくります。

◆ アクティブ展示解説

「自然」「音」「光」「力」「宇宙」の各ゾーンの特定の展示アイテムで、スタッフが特別な解説を行います。



◆ サイエンスショー

みらいーらステージでサイエンスショーを実施します。予測したり考えたりするプロセスを重視したプログラムとします。テーマを適宜替えて1日に5回実施します。

◆ ミニワークショップ

観察、実験、工作、プログラミング体験等のプログラムを実施します。

発展編 ①

手を動かして考えることを重視し、観察や実験、工作などのプログラムを展開します。自ら工夫する要素を入れ込んだり、作ったものを持ち帰ることができたりと、サイエンスショーや展示学習とは異なる学びの機会を提供します。

◆ サイエンスラボ、ものづくりラボでのプログラム、展示フロアでのプログラム

内容の主目的に応じて、15分で科学実験（実験・工作）、15分で自然観察（観察）、15分で展示実験（展示アイテムを用いた実験）——とカテゴリを分けて実施します。

発展編 ②

小学校高学年の児童から大人を対象とした発展的な内容のプログラムを実施します。プログラムは30分～半日程度を想定し、参加者の学びの充実度合いを高めます

◆ サイエンスラボ、ものづくりラボでのプログラム

作業時間に15分以上必要な長時間の実験、工作、観察を行ったり、多くの解説やコミュニケーションが必要となる発展的なラボでのプログラムを企画し、より発展的な学びの機会を提供します。

◆ 自然観察会

科学館周辺や浜松市内で、植物、鳥類、昆虫類などの生物を対象に観察会を実施し、生物学、生態学の理解を深めるとともに、浜松の自然を体感する機会をつくれます。

◆ サイエンスカフェ

「トークオブワウンダー ～知って楽しい科学のお話～」と題し、カフェ＆ライブラリーにおいて、気軽に楽しめる科学に関する話題を科学館スタッフが分かりやすく解説します。

（5）プラネタリウム

光学式プラネタリウムとデジタル式プラネタリウムの両方の長所を生かしたプログラムの運用を行います。当館の特徴であるスタッフによる当日の夜の星空の生解説（ライブ投映）と番組映像の内製を実施します。

また、館内アンケートでプラネタリウムを観覧しなかった理由として、「プラネタリウムを見る時間がない」という意見が多かったことに加え、「キッズプラネタリウム」を観覧する乳幼児が増えて、想定していた年齢層より低下する傾向にあるため、従来の「キッズプラネタリウム」の内容をより低年齢層でも楽しめるものに改良し、観覧者の状況に合わせて柔軟に運用します。

① 投映スケジュール

平日は一般向けの投映を午後に1回行い、その他は学校を中心とする事前予約団体向けの投映を最大3回行います。土曜・日曜・祝日と学校休業期間は、赤ちゃんを含めた家族向けの「キッズプラネタリウム」と一般向けの「プラネタリウム」とを合わせて1日計3回投映します。ドームスクリーンを活かした「大型映像」を平日は1回、土曜・日曜・祝日と学校休業期間は2回上映します。また、高校生以上の成人を対象に、毎月1回、『夜の科学館』の際に夜間投映を行います。

回	平日	土曜日・日曜日・祝日・学校休業期間②
1	10:30～11:15 (事前予約団体)	10:30～11:05 キッズプラネタリウム
2	11:35～12:20 (事前予約団体)	11:30～12:25 プラネタリウム
3	13:00～13:45 (事前予約団体)	13:15～13:55 大型映像①
4	14:30～15:25 プラネタリウム	14:30～15:25 プラネタリウム
5	15:50～16:40 大型映像②	15:50～16:40 大型映像②
6	夜の科学館 (毎月第2金曜日。時間・内容等未定)	

② 投映番組

◆ プラネタリウム

当日の星空解説と、テーマ解説の2部構成で投映します。テーマ解説では天文や宇宙に関する話題をスタッフが内製する映像を交えて紹介します。

時期 (日程は変更になる場合があります)	内容
2024年3月1日(金)～6月16日(日)	「花と星めぐり」 浜名湖花博 2024 に合わせて、花と星を結びつけた内容を予定。
6月18日(火)～7月7日(日)	「七夕」(仮称) ※日時設定等要スクリプト修正 織姫星と彦星の見つけ方や七夕伝説などを紹介 (再投映)
7月9日(火)～9月17日(日)	「未定」
9月19日(火)～11月29日(金)	「未定」
11月30日(土)～12月25日(水)	「星降るクリスマス」 "クリスマスの星"などについて解説 (再投映)
12月26日(木)～2025年3月31日(月)	「未定」

◆ 大型映像

ドームスクリーンに大画面の映像作品を上映します。レーザー光源となって発色が良くなり、明るさも増した4Kデュアルプロジェクションシステムで、鮮明で迫力ある映像体験を提供します。今年度は通年で1作品を上映するのに加えて、夏休み時期に合わせて1作品を追加することとします。

時期（日程は変更になる場合があります）	内容
4月1日（月）～7月19日（金）	番組① 「すみっこぐらし ひろい宇宙とオーロラのひかり」 すみっこたちと一緒に星空を巡る旅に出て、宇宙を体験するアニメ作品。
	番組② 「銀河鉄道の夜」（上映権保有期間 2024年8月31日まで） 星を愛した作家・宮沢賢治の傑作「銀河鉄道の夜」を、映像クリエイターKAGAYA氏が鮮明に再現した作品。
7月20日（土） ～10月14日（月）	番組① 「すみっこぐらし ひろい宇宙とオーロラのひかり」
	番組② 「恐竜超世界 受け継がれるいのち」 6600万年前の地球を舞台に、親から子へ受け継がれる知恵、そして生命。厳しい生存競争のなか、懸命に生きる親子の物語。
10月16日（水） ～2025年3月31日（月）	番組① 「すみっこぐらし ひろい宇宙とオーロラのひかり」

◆ 事前予約団体（学習利用）を対象とした投映

対象年齢等に応じた、きめ細やかなプログラムを用意します。スタンダードプログラムは、すべての年齢層に合うような構成「浜松の星空解説+太陽系惑星旅行」に変更します。

種類	内容
スタンダード	「浜松の星空解説+太陽系惑星旅行」 どなたでも楽しみながら宇宙への興味をかきたてられるスタンダードプログラム
理科学習 （小学4年生向け）	「浜松の星空解説+学習指導要領の内容+太陽系惑星旅行」 4年生の理科の授業カリキュラム（夏と冬の星座、星の動き、星の色の違い、月の動き、月の形）に合わせた理科学習投映
理科学習 （小学6年生向け）	「浜松の星空解説+学習指導要領の内容+太陽系惑星旅行」 6年生の理科の授業カリキュラム（月の表面、満ち欠け）に合わせた理科学習投映
理科学習 （中学生以上向け）	「浜松の星空解説+番組『太陽～私たちの母なる星～』」 星空解説とESO(ヨーロッパ南天天文台)制作の太陽に関するオート番組を組み合わせた学習要素が強いプログラム

③ プラネタリウムの利用促進

◆ プラネタリウムドームを活用したイベント等の開催

時期	内容
秋～冬（時期未定）	特別投映トークライブ「オーロラワンダーランド」（仮称） 出演：中垣哲也 氏（オーロラダンス）
随時	「ちよこっとプラネタリウム」（仮称）

(6) 夜の科学館

大人を対象とした全館での事業を行います。月1回、第2金曜日の夜に、大人向けのプラネタリウムやサイエンスショー、特別コンテンツなどを提供します。月ごとに食、歴史、テクノロジーなどのテーマを設定し、テーマに合わせた内容のプログラムを実施します。カフェもオープンし、週末の夜を科学館でゆっくり過ごしてもらえるような企画とします。

(7) 学校等との連携、協力

学校等の団体が利用しやすい環境の整備に努め、科学館の特徴を活かした効果的な学習の機会を提供します。浜松市教育研究会理科研究部等との協力関係を堅持し、「科学的に調べる能力と態度」や「科学的な見方・考え方を養う」という共通の目的をもって協働を進めます。特に令和6年度は、プラネタリウムの学習投映利用を促進するよう、科学館から教員への働きかけを積極的に行います。

① 学校等の団体利用を推進

◆ 団体向け学習プログラムの実施と利用の働きかけ

- ・ 展示見学やサイエンスショー・理科学習投映等のプログラムを、団体側が選択できるようにします。
- ・ 「学習利用ガイドブック」を各市の教育委員会を通じて学校に配布し、ウェブサイトでも公開します。
- ・ 校長会等に出向き、科学館を利用した学習活動について説明します。

◆ 学習利用にあたっての教員との連携・協力

- ・ 科学館を利用する教員の相談や下見に対応し、学習効果の高い授業の実施を支援します。
- ・ 学習のための教材の貸し出しを行います（天竜川岩石標本、リバージオモデル等）。

② 出張プログラムの実施

◆ 学校や公共施設を対象とした出張プログラムの実施

従来の方針を変更し、遠方（車で片道1時間程度）の学校や、院内学級、特別支援学校、外国人学校等、科学館を利用しづらい団体を対象に、サイエンスショー、科学工作、野外観察などのお出張プログラムを提供することで、一人ひとりが受容され居場所があると感じられるインクルーシブ（包摂）な場作りを目指します。

③ 課外活動や自由研究に関する作品展、相談等の実施

小学校や中学校、高校の児童・生徒の課外活動や自由研究等について、科学館ならではのリソースを用いて支援していきます。科学館利用者としての中学生や高校生との接点を増やし、科学館の存在価値を高めます。

◆ 科学の学園祭

生徒・学生たちが日々の部活動、課外活動等で取り組んでいることの成果を、ワークショップ、サイエンスショー、ポスター等のかたちで表現してもらい、来館者との間で、生徒・学生同士での交流が生まれる場を提供します。

◆ 理科の自由研究「みらいーら自由に研究ラボ」

電子顕微鏡や生物顕微鏡等、科学館の設備の貸し出しや来館者を対象としたモニタリング、科学館スタッフとの対話をとおして、浜松市内の小・中学生の理科の自由研究を支援します。さらに、科学の学園祭にて研究成果の発表を行い、優秀作品を表彰します。

◆ 浜松市小・中学生理科研究作品展

浜松市教育研究会理科研究部と共催し、理科自由研究の優秀作品を展示します。

◆ 理科自由研究等の相談

夏休み期間中に、児童・生徒の自由研究や発明くふう作品に関する相談を随時受け付けます。

④ 学校等における研修、実習への対応

- ・ 浜松市及び近隣市町の小・中学校の依頼に応じ、新規採用教職員及び在職 10 年程度の教職員を対象とした社会教育施設研修を実施します。
- ・ 中学生の職場体験を受け入れ、科学館の社会的役割や仕事の意義を生徒に伝えます。
- ・ 大学の博物館・社会教育施設実習を受け入れ、実習生向けのプログラムを実施します。
- ・ 大学の講義やゼミ等を支援します。
- ・ 企業や団体が実施する人材育成研修にも対応します。

(8) 関係機関等との連携、協力

① 市内の関係機関等との連携、協力

◆ 浜松市小・中学生発明くふうコンテスト

浜松経済クラブとの共催で、浜松市内の小・中学生を対象とした発明くふうコンテストを行い、優秀作品を顕彰します。展示では、自身の作品を紹介する動画も公開します。

◆ トップガン教育システム協議会、浜松ユネスコ協会学校委員会との連携

市内の教育関連団体が実施する催しに協力し会場を提供します。

主催団体	内容
トップガン教育システム協議会	・第 9 回小・中学生理科研究プレゼンテーションコンテスト 10 月 27 日 (日) ※予定 ・第 12 回 MATH やらまいか決勝大会 12 月 14 日 (土) ※予定
浜松ユネスコ協会学校委員会	・ユネスコ科学教室 ※未定

◆ 浜松市天文台との連携

毎月の星空案内の共同発行を継続します。

◆ 静岡大学・静岡県立農林環境専門職大学との連携

静岡大学との連携で、サイエンスカフェを実施するほか、静岡県立農林環境専門職大学と連携して、農林業分野をテーマにしたサイエンスカフェを実施します。

② 地元企業等との連携

◆ 各催しにおける連携、協力

- ・ 秋の企画展を中心に、地元の企業等と連携してワークショップなどの催しを展開します。

◆ 「やらまいかテクノロジーコーナー」の設置と地元企業の技術の発信

- ・ 浜松のものづくり技術を紹介する「やらまいかテクノロジーコーナー」を設置します。

◆ 地元企業・団体を対象にサポーター会員を募り、科学館事業の充実を図ります。

◆ 地元企業・団体との合同事業

- ・ 浜松発明研究会など地元団体の成果物の展示会を開催します。
- ・ ファブラボ浜松を中心とした地元メーカーと合同で、「マイクロメーカーフェア」を開催します。

③ ミュージアムや研究機関等との連携

◆ 地域博物館施設や全国の科学館等との連携、協力

- ・ 代表企業が運営する科学館や、地域の博物館、その他全国のミュージアムと連携し、コンテンツの開発や共有を図ります。

◆ 研究機関等との連携

- ・ 科学に関連した研究機関との連携し、専門性の高い知見に来館者が触れる機会を創出します。

④ 他のイベントとの連携による賑わい創出

◆ サイエンスパークでのイベント等の開催や、中心市街地のイベントとの連携

- ・ 屋外を活用したイベント等を行い、地域に賑わいを生み出します。
- ・ 浜松まちなかにぎわい協議会、浜松こども館、浜松市立青少年の家、新川モールと連携し、各施設や中心市街地への誘客促進を目的とした事業を実施します。

(9) ボランティア活動支援

浜松科学館の運営パートナーとして、市民ボランティアの活動を支援します。前年度からの継続希望者に加えて、新たに一般ボランティア（大人）とジュニアボランティア（中学生・高校生）を募集します。

① ボランティア活動支援の方針

ボランティアが来館者の学びをサポートすることを通じて、地域社会に貢献できる場を提供します。また、ボランティアの主体性を尊重し、さまざまな活動機会をコーディネートします。工作、ワークショップ、展示解説、読み聞かせ、樹木管理等のさまざまな分野のスキルやモチベーションを活かせる場を共に作り上げ、幅広い市民の参加を目指します。

② ボランティア活動の場の提供

各チームがボランティアの活動を支援する体制を整え、来館者とのコミュニケーションや展示解説、ワークショップの運営など館全体で幅広い活動の場づくりに努めます。

③ ボランティア研修、交流会の実施

基礎研修、安全管理研修に加え、ボランティア自身が活動の幅を広げられるよう、他館視察や職員の専門性を活かした「サイエンスコミュニケーション講座」、「やさしい日本語講座」などを実施し、地域の特性を知り、科学に関する学びを深める機会を設けます。また、ボランティア同士の交流を深めるため、秋の企画展「科学の学園祭」でのジュニアボランティアブースの出展やボランティア交流会を実施します。

④ ボランティアの募集

「広報はままつ」及び科学館ウェブサイトへの記事掲出等によって募集の告知を行います。新規応募者に対しては面談や基礎研修、安全管理研修を実施します。

- ・ 2024年度の日程・・・4月～5月 募集、6月 研修、7月 活動開始

(10) 調査・研究及び収集・保存、ドキュメンテーション

主に自然観察園をフィールドとし、そこで観察できる生物や科学的な事象に関する調査・研究を行い、オンライン上（note）で紹介していきます。身近な自然に気付く機会や、それをより深く学ぶためのヒントを提供することが目的で

す。得られた標本やデータは、展示やミニガイドブックの形で公開します。

また、当館が展開するサイエンスショーやアクティブ展示解説などの無形のコンテンツを広く共有するために、情報を収集して整理・体系化し、紀要等の記録を作ること（ドキュメンテーション）を進めます。あわせて、博物館法改正に伴う新たな登録・指定施設の認定を目指して、館内資料等の整備をするとともに、登録事務の準備を進めます。

(11) パブリックリレーションズ

利用者の視点に立って戦略的な広報に取り組み、科学館と利用者をはじめとするステークホルダーとのより良い関係の継続的な構築に努めます。内製の紙およびウェブ媒体の充実を図り、情報を的確に利用者や市民に届け、集客につながるブランディングを進めます。あわせて、様々なメディア媒体を通して科学館に携わる“人”が見える発信を継続し、親しみの醸成につなげます。また、新規来館者の獲得とリピーターの定着の良好なバランスを維持させられるようメディアリレーションにも注力し、利用者が科学館の情報に接する機会を増やします。

一方、浜松市天文台との「星空案内」の共同制作を継続するほか、リソースの公開や多様な場の活用をドキュメンテーション等により伝え、地域に開かれた場所となることを目指します。

◆ 紙媒体の活用

事項	内容
ニューズレター「COMPASS」	科学館の事業の全体的な広報を行う。市内及び周辺市町の小学校等へ配布する。（年5回）
星空案内	浜松市天文台と共同発行し、市内の各所で配布する。（毎月）
リーフレット	施設案内のためのリーフレットを制作し、来館者を中心に配布する。（不定期）
ポスター、フライヤー	科学館の主要事業の集客のための広報をタイムリーに行う。
企画展等の図録	一部企画展、特別展等に関して図録にまとめ、配布または販売します。
紀要	科学館独自の事業等をまとめ配布します。

◆ ウェブ媒体の活用

事項	内容
公式ウェブサイト	タイムリーにコンテンツを更新し、来館意欲のわくような、わかりやすい情報発信を行うとともに、利用者の利便の向上を図ります。
公式 SNS アカウント	X(Twitter)、Facebook、Instagram、YouTube、note の公式アカウントを通じて情報を発信します。
公式アプリ	公式アプリ「コンパス」を用いて、アプリの利用者にお知らせを発信します。

◆ 行政の媒体の活用

事項	内容
浜松市広報紙	浜松市の広報紙への記事掲載のために、遅滞なく科学館の最新情報を市へ提供します。

浜松市教育委員会「ミライム」

浜松市教育委員会のイントラネット「ミライム」を活用し、小中学校の先生向けに情報発信します。

◆ メディアリレーション

事項	内容
メディア連携	指定管理者の構成企業である SBS グループと連携した情報発信や広告掲出を行います。
パブリシティ	各メディアに対して科学館の最新情報を配信し、取材の働きかけを行ってメディア露出を増やします。

(12) 利用者調査とその活用

来館者に直接声を掛け、質問票（用紙・タブレット）を使用した利用者調査を実施します。回答は四半期ごとに集計し、分析をして今後の事業運営や業務改善等の参考とします。また、年齢による回答をより明確化するため、主に小学生の利用者を対象とした「こどもアンケート」を実施します。

◆ 利用者調査結果の分析と運営方針

① 市民に親しまれる科学館

来館者の約半数が浜松市民です。科学館や職員が積極的に地域と関わることにより、市民から広く利用され、親しみや愛着をもたれることを目指します。地域の特色を生かした企画展・特別展や地元事業者が参加する「みらいーらみ なくるマーケット」の開催、ボランティアの活動支援等を行います。また、地域に所在する一つの拠点として、企業や教育団体、施設等と連携し、つながりを深めていきます。

② 新規来館者とリピーターのバランスの維持

新規来館者の獲得とリピーターの定着の良好なバランスを維持し、持続的な施設運用に努めます。

③ 直近リピーターに向けた施策

約 4 割の直近リピーター（1 年以内の来館者）に向けた施策を行い、継続的な関係構築につとめます。年 4 回の特別展・企画展の開催に加え、交流や体験を重視した更新性のあるコンテンツを内製し、何度来ても新鮮な発見のある科学館を目指します。

④ 親子向けサービスの充実

来館者の約 7 割である親子層に向けたサービスや企画の充実を図ります。「さがしてためしてみらいーら」（館内の展示を親子で楽しむワークブック）の活用や、親子向け参加型学習等を実施します。

⑤ 多様な年代や属性の利用者の拡大

親子層以外にも、多様な来館者それぞれに向けた企画等を展開し、さまざまな人が科学に触れられる機会を設けます。大人（高校生以上）限定の「夜の科学館」、主に中学生以上の学生が主体となる「科学の学園祭」などを開催します。

(13) 常設展示更新事業

2024 年度、2026 年度の 2 か年にわたって実施する展示更新事業に向けてプロジェクトチームを結成し、設置者（浜松市）をはじめ科学館スタッフ、協力者等を交えチーム横断的に取り組んでいます。

ボランティアや運営委員、市民団体など幅広い方々に展示製作の過程への参加を求めるため、DE&I（※）を推進し、開かれたプロセスによる新しい学びの価値創造を目指します。

◆年間予定

月	内容
4月～7月	第1期展示更新実施設計書の作成
7月～12月	実証実験・工場製作
10月～	リニューアルの告知、PR
1月～2月	現場施工・設置
3月下旬	テストランニング・一般公開

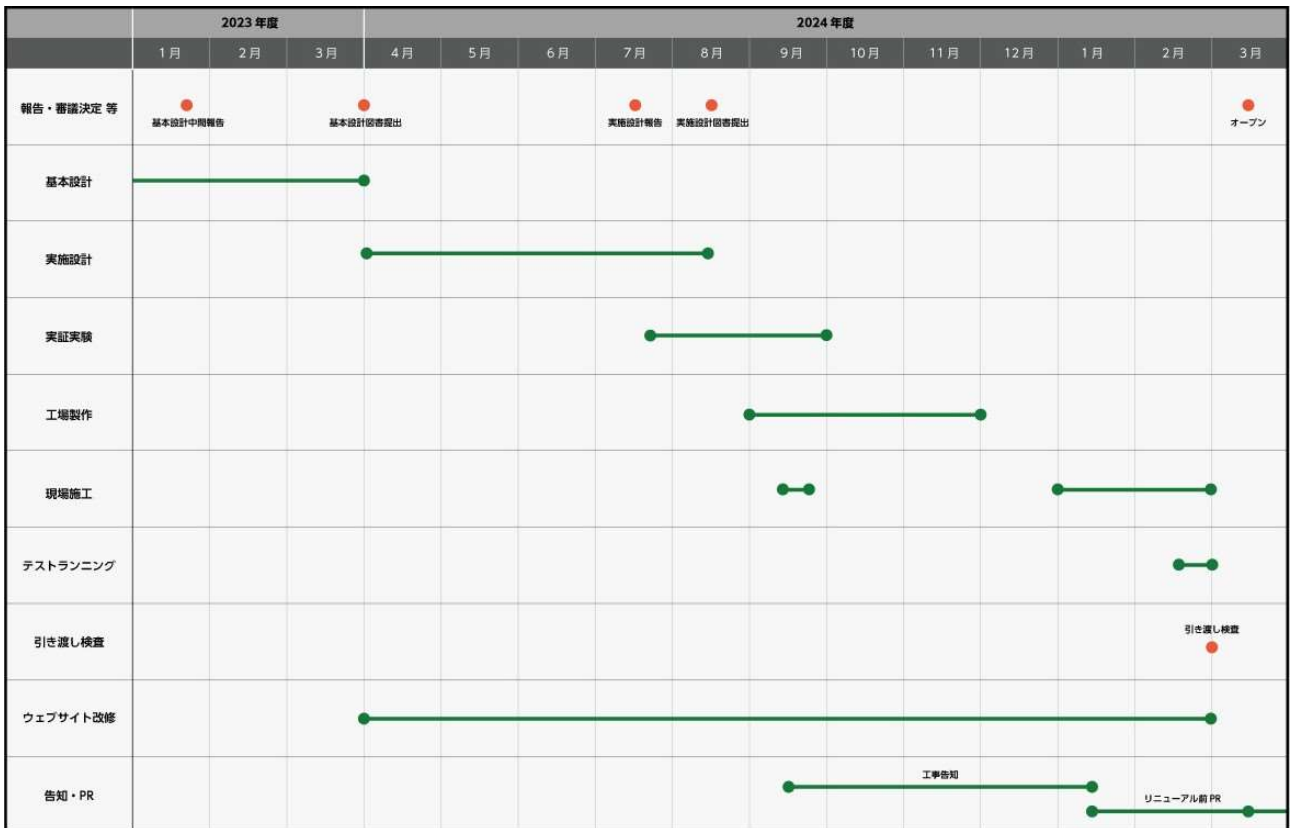
※Diversity, Equity & Inclusion (DE&I) とは、多様な文化や価値観、考え方を尊重するダイバーシティ（多様性）を基本として、一人ひとりが受容され居場所があると感じられるインクルーシブ（包摂）な場作りを進め、地域社会が直面している課題に対し、ともに乗り越えられるよう支援するエクイティ（公平性）を目指す活動のこと。

◆事業スキーム

名称	浜松科学館常設展示更新事業（仮称）
事業期間	2024 年度（第 1 期） 2026 年度（第 2 期）
事業予算	第 1 期 48,999,500 円 第 2 期 50,000,500 円（いずれも消費税込金額） 協定書第 31 条第 4 項及び第 5 項の規定に基づき、業務完了検査後、展示更新に関する指定管理料として浜松市が指定管理者に支払う。
事業スキーム	1 事業形態 DBO 協定書に基づく指定管理業務の期間内事業として実施 2 目的 「各科学分野の進展や最新の科学的知見、展示協力企業の持つ科学技術の状況を鑑み、指定管理期間を通じて常設展示数の 1 割程度（企業協力展示を除く）を目安に計画的に更新していくものとする。」（運營業務に関する要求水準書 40 頁 抜粋）

◆業務工程

・浜松科学館常設展示更新事業スケジュール表（第1期）



※検査完了後、翌年度（令和7年）上半期に指定管理者が展示評価を行い、検証、改良等を行う

3 経営管理計画

(1) 開館日及び開館時間

2024年度の休館日及び開館時間を以下のとおりとします。今年度から、7月1日(月)は開館日とし、市制記念日に合わせて常設展入館料を無料にします。

◆ 開館日数

2024年4月1日～2025年3月31日のうち313日

◆ 休館日数

2024年4月1日～2025年3月31日のうち52日

休館区分	該当日		休館日数
月曜日・休日の翌日	4月8日、15日、22日	5月13日、20日、27日	38日
	6月3日、10日、17日、24日	7月8日、16日	
	8月5日、26日	9月2日、9日、17日、30日	
	10月7日、15日、21日、28日	11月11日、18日、25日	
	12月2日、9日、16日、23日	1月14日、20日、27日	
	2月3日、12日、17日	3月3日、10日、17日	
機器メンテナンス	4月23日、24日、25日、26日 9月24日、25日、26日、27日		8日
年末年始	12月29日、30日、31日、1月1日、2日、3日		6日

◆ 開館時間

開館時間については、平常時を9:30～17:00、7月20日から8月31日は9:30～18:00とします。ただし、特別な催しを行う際には、開館時間を延長する場合があります。

また、毎月1回 第2金曜日に「夜の科学館」を実施し、高校生以上を対象にじっくりと展示やプラネタリウムを楽しむことができる特別メニューを実施します。

(2) 利用料金

① 利用料金

浜松科学館条例(昭和61年浜松市条例第30号)に基づき、利用料金を以下の通りに設定します(金額には消費税及び地方消費税を含む)。昨年度より現金での收受以外に、キャッシュレス決済を導入しました。

区分	常設展入場料			常設展入場料+プラネタリウム1回分観覧料 (大型映像1回分観覧料)			
	大人	中人 (高校生)	小人 (中学生以下)	大人	中人 (高校生)	小人 (中学生以下)	
通常料金	600円	300円	無料	1,100円	550円	無料	
団体料金	浜松市 湖西市	420円	210円	無料	770円	380円	無料
	その他地域	540円	270円	無料	990円	490円	無料

※70歳以上の方は入場料および観覧料が無料となります。

※2番組目の観覧料は、大人200円、中人100円が追加されます。

②その他利用料金

◆ 特別展

開催規模や内容に応じて市と協議の上、入場料として適正な料金を設定します。

◆ その他の料金

教室やワークショップ等の催しで、材料費や資料費等の実費相当額を参加費（受益者負担分）として徴収します。

◆ 年間パスポート

今年度も年間パスポートは常設展入場料を対象に発行をします。

区分	常設展入場料		
	大人	中人（高校生）	小人（中学生以下）
料金（税込）	1,500 円	750 円	

(3) 年間目標

浜松科学館の健全でバランスの取れた財務運営を進めるために、利用料金等の適切な受益者負担を前提として収支計画を作成し目標を定めます。※詳細は（9）収支計画参照。

① 目標利用者数

有料ゾーンへの入館者となる常設展示利用者数については、年間 17 万人を目標とします。

② 利用料金収入

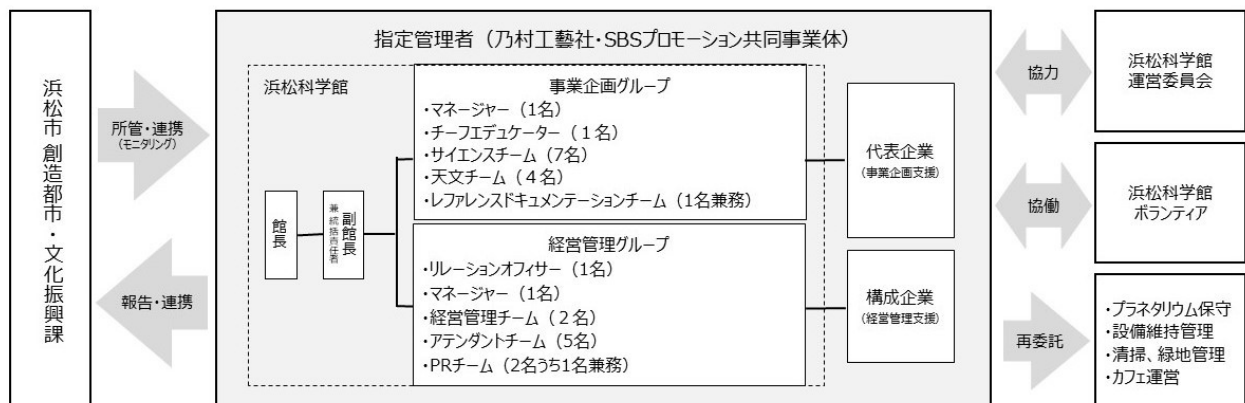
入館料・観覧料及びワークショップ等参加費による利用料金収入は 6,260 万円を目標とします。

(4) 管理運営体制

① 運営組織

科学館事業に必要な組織体制を構築し、事業規模に合わせて適正な人員を確保します。学芸系のスタッフには科学・技術や社会教育等の博物館の学びに関する専門知識・技能の保持者を多数そろえて、専門性に根差した質の高い事業を進めます。PR や連携活動、館内の接客や案内業務ではスキルや経験の豊富なスタッフを充て、バックヤードの施設管理や事務等は、協力会社や共同事業体各社と連携して的確な業務を遂行する体制を築きます。

浜松科学館 指定管理者業務組織体制図（2024年 4月1日）



◆ 浜松市との緊密な連携

指定管理者制度の枠組みの中で浜松科学館の理念を推進していくために、浜松市との緊密な連絡・報告・協議体制を構築した上で、主体的な事業運営を行います。毎月実施する定例の月次報告会では、館長から浜松市市民部創造都市・文化振興課・生涯学習担当課長へ管理運営状況を報告し、共同事業体構成企業担当者、統括責任者以下各責任者が出席して詳細な情報共有と問題・課題の解決にあたります。

◆ 共同事業体構成企業のバックアップ

共同事業体構成員の企業は、連帯して指定管理業務に責任を負うとともに、必要な経営資源（人材・業務インフラ・資金・情報等）を供給し、各社の得意分野を活かして運営をバックアップします。

◆ 全国の科学館との人的交流と事業連携

共同事業体代表企業が運営する科学館をはじめ、全国の科学館との人的交流や事業面の連携を図る環境をつくり、運営ノウハウの共有や、スタッフ個々人の専門能力の向上を図ります。

◆ 職員の教育研修

健全な職場環境を築き、組織としての成長を図るために、科学館・博物館が主催する専門スキル養成研修や個人の能力開発、キャリア形成のための研修参加を積極的に支援します。

② 職務分掌

館長、副館長（統括責任者）のもとで、経営管理グループ、事業企画グループが、それぞれの業務を推進します。

役職・担当		職務分掌	
館長 1名		館を代表して渉外・外交を統括	
副館長 兼 統括責任者 1名（防火管理者兼務）		館全体の管理運営を総括、浜松市との連絡調整	
経営管理 グループ (10名)	リレーションオフィサー 1名	地域の関係機関との連携協力、事業開発、サポーター制度、防災管理、業務委託管理、施設維持管理	
	マネージャー 1名	経営管理部門の実務責任者	
	経営管理チーム (2名)	リーダー 1名	総務、人事、経理、施設管理、問合せ対応等
		常勤 1名	
	アテンダントチーム (5名)	リーダー 1名	総合案内、チケット販売、団体予約管理・受付対応 プラネタリウムドーム内案内・誘導 ミュージアムショップ運営（自主事業兼務）
		サブリーダー 1名	
常勤 3名			
PR チーム (2名)	リーダー 1名(事業企画グループマネージャーが兼務)	パブリックリレーション、PR 広報紙等アイテムのデザイン・製作、WEB サイトの運営	
	常勤 1名		
事業企画 グループ (13名)	マネージャー 1名	事業企画部門の実務責任者	
	チーフエド्यूケーター (CE) 1名	教育普及活動全般の統括、展示更新 PT リーダー	
	天文チーム (5名※1名兼務)	リーダー 1名(CEが兼務)	宇宙・天文に係わる教育普及活動（学芸業務） 放映業務・番組制作・新規放映の企画 天文情報の収集・発信 設備機器の稼働・保守
		サブリーダー 1名	
		常勤 3名	
	サイエンスチーム (7名)	リーダー 1名	物理・生物・地学・工学分野等の教育普及活動（学芸業務） 常設展示の稼働・保守・補修、展示企画・特別展等制作 研究活動、情報収集・発信 ボランティアとの連携による活動支援
常勤 6名			
RD チーム (1名※兼務)	リーダー 1名(経営管理グループマネージャーが兼務)	科学館活動のレファレンス・文書資料管理（ドキュメンテーション） ボランティア活動支援のコーディネーター	

③ 浜松科学館運営委員会

科学館事業への助言および協力を得ることを目的とし、学識経験者、行政・経済団体職員で構成する浜松科学館運営委員会を設置し、共同事業体が事務局を担います。

○委員名簿

役職	氏名(敬称略)	所属
委員長	上野 征洋	静岡文化芸術大学 名誉教授
副委員長	遊橋 裕泰	静岡大学情報学部 教授
委員	村井 良子	(有)プランニング・ラボ代表 (ミュージアム・プランナー)
委員	嶋野 聡	浜松市 市民部 文化振興担当部長
委員	名波 佳紀	浜松商工会議所 産業振興部 工業振興課長

(5) 受付案内

① アテンダント業務の方針

来館者に迅速かつ適切な利用案内を行い、顧客満足度を高めるよう努めます。業務マニュアルを超えたきめ細かなサービスを提供し、日々の業務の振返りと改善を図ることで、不断の向上を図ります。

② アテンダント業務

◆ 1階インフォメーションにおける受付・案内業務

業務	内容
来館者の誘導、案内、受付業務	<ul style="list-style-type: none"> 来館者の誘導、案内 (車椅子・ベビーカー等貸出、拾得物・遺失物への対応を含む) 団体の誘導、案内 (予約受付、下見対応等含む) 施設、利用方法、当日のプログラム、スケジュール等の総合案内・各種問合せ対応
発券業務	<ul style="list-style-type: none"> 常設展、プラネタリウム、年間パスポート等の利用料金の徴収 (減免手続や領収書発行等含む) 上記に伴うチケットの発行、プラネタリウムの残席数の管理
ミュージアムショップでの販売、接客対応、補充、商品管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ミュージアムショップ利用者への商品販売・接客対応 商品の補充、在庫の管理 (半年に1度棚卸実施) ガチャの商品補充、本体の管理 (故障対応等)
科学学習情報システム端末貸出業務	<ul style="list-style-type: none"> 科学学習情報システムの貸出端末利用者への対応 端末の貸出料金の徴収
情報提供業務	<ul style="list-style-type: none"> 周辺及び市内の文化施設や関係機関に関する情報提供等 (コンシェルジュ業務)

◆ プラネタリウムにおける誘導・案内業務

科学館3階のプラネタリウムドームで、プラネタリウム・大型映像観覧者の誘導、案内等を行います。

業務	内容
チケット確認	<ul style="list-style-type: none"> プラネタリウム観覧券の確認、観覧者対応
ドーム管理、誘導案内	<ul style="list-style-type: none"> 座席への誘導および出口への誘導、非常時の際の避難誘導

(6) 施設貸出

① 施設貸出業務の方針

浜松市スポーツ・文化施設予約システム（まつぼっくり）による施設の利用申請を受け付け、利用許可に伴い料金を徴収します。利用日の6カ月前（教育関係団体は7カ月前）から申請の受付を行います。

指定管理者によるイベント実施期間等を除く時期に施設の有効活用を図るため、施設の特長や利用方法等についての周知を図り、市民の学習、文化・交流活動等に対応します。

② 貸室料金等

◆ 利用可能時間

9:30 から 21:30 までを貸出時間とします。（準備、片付け、原状復帰の時間も含む）

◆ 対象諸室と利用料金

浜松科学館条例に基づき、利用料金を以下の通りに設定します。（金額には消費税及び地方消費税を含む）

対象諸室	利用区分	9:30～10:00 及び 21:00～21:30		10:00～21:00 1時間につき	
		入場料徴収なし	入場料徴収あり	入場料徴収なし	入場料徴収あり
ホール	教育関係団体	入場料徴収なし	470	940	940
		入場料徴収あり	940	1,880	1,880
	その他	入場料徴収なし	940	1,880	1,880
		入場料徴収あり	1,880	3,770	3,770
セミナールーム A	教育関係団体	入場料徴収なし	160	320	320
		入場料徴収あり	320	640	640
	その他	入場料徴収なし	320	640	640
		入場料徴収あり	640	1,290	1,290
セミナールーム B	教育関係団体	入場料徴収なし	160	320	320
		入場料徴収あり	320	640	640
	その他	入場料徴収なし	320	640	640
		入場料徴収あり	640	1,290	1,290

◆ 備品等の貸出について

椅子や机等の備品貸出の他、音響、照明、冷暖房装置等の備品は、浜松科学館条例施行規則（平成 18 年浜松市規則第 120 号）で定められた金額での貸し出しを行います。

(7) 施設維持管理

① 施設維持管理業務の方針

利用者にとって快適かつ機能的な環境を継続的に提供することを目的に、設備機器等の事故、故障を未然に防ぐ「予防保全」の考え方を基本方針として、中長期的な観点からライフサイクルコストの低減にも努めます。公共施設、社会教育施設としての施設特性を踏まえ、その目的の達成を施設維持管理面で支えるため、次の基本的な考え方に基づいて業務を行います。

- 来館者にとっての安心・安全・快適な環境を実現します。
- 当施設の建物、設備、展示装置、その他装置、物品等を適切に管理し、機能及び性能を保ちます。
- 「浜松市役所温暖化対策マネジメントマニュアル」（平成 22 年 4 月制定）に従い、省エネルギー、省資源に

努め、環境負荷の低減に配慮した管理を行います。

② 施設維持管理業務

安全、安心で快適な施設環境を保つため、設備管理業務、清掃業務、警備業務を行います。

設備管理業務では専任の作業員が常駐し、空調等の設備機器の運転、保守及び監視を行います。また、清掃業務については、建物の保全並びに衛生、美観の保持のため、開館中は作業責任者が常駐し利用状況に合わせて作業を行い、夜間等閉館時及び休館日には清掃員による集中清掃を行います。

<設備維持管理業務内容>

* 施設設備仕様に合わせて適宜、業務内容を追加します。

区分		業務内容
日常管理	設備運転管理業務	・設備運転管理
	日常清掃業務	・日常清掃（感染対策を含む）
	警備業務	・機械警備
定期保守	設備保守点検業務	① 特定建築物定期調査報告（年1回） ② 建築設備定期検査報告（年1回） ③ 防火設備定期点検報告（年1回） ④ 昇降機設備保守点検（法定点検及び定期点検：毎月） ⑤ 自動ドア保守点検（年4回） ⑥ 空調設備保守点検（年2回） ⑦ フロン漏洩点検（年4回） ⑧ フィルター清掃（年2回） ⑨ 空調自動制御機器保守点検（年2回） ⑩ 二重吸収式冷凍機保守点検（年4回） ⑪ 消防設備保守点検業務（法定点検及び定期点検） ⑫ 自家用電気工作物保守点検業務（法定点検及び定期点検：毎月） ⑬ 非常用発電機保守点検業務（年1回） ⑭ 監視カメラシステム及び放送設備の保守点検業務（年1回） ⑮ 空気環境測定業務（年6回） ⑯ 受水槽等清掃（年3回） ⑰ 簡易専用水道検査及び水質検査（各年1回以上） ⑱ レジオネラ菌検査（年2回） ⑲ 害虫駆除・鼠防除管理業務（毎月） ⑳ 防火対象物定期点検報告（年1回）
	ホール設備保守点検業務	① 舞台照明保守点検業務（年1回） ② 音響設備保守点検業務（年1回）
	定期清掃業務	① 定期清掃（年6回以上） ② ガラス清掃（年2回以上） ③ 屋外緑地の植栽管理（年2回以上） ④ 紙屑危険物搬出業務（週2回以上）

③ プラネタリウム機器の保守管理業務

プラネタリウム機器を常に正常な状態に保ち、最適な環境の下で安定的に投映を行うことができるようにするために、日常点検を行うとともに、故障やトラブルを未然に防ぐために製造社（五藤光学研究所）による定期保守点検を行います。また、不具合が生じた場合は、速やかに復旧させるために、補修や部品交換等の適切な処置を迅速に行います。

<定期保守点検の実施内容> * 機器仕様及び機器コンディションに合わせて適宜、業務内容を変更します。

業務内容	頻度
総合点検（光学式・デジタル式プラネタリウム、プロジェクター 等）	2回/年

④ 展示保守管理業務

映像機器や展示装置等を常に正常な状態に保ち、故障や破損を未然に防ぐことで、来館者が安全に利用できるように、日常的な点検を行うとともに、適宜、保守点検を行います。また、映像機器や情報機器には耐用年数があることから、機器の特性に応じて機器更新を行います。不具合が生じた場合は、速やかに復旧させるために、補修や部品交換等の適切な処置を迅速に行います。

<保守点検の実施内容> * 展示仕様及び機器コンディションに合わせて適宜、業務内容を変更します。

業務内容	頻度
1 映像機器点検作業（映像・音響装置、プロジェクター、タブレット PC 等調整・動作点検）	適時
2 展示装置点検作業（調整・動作点検）	適時
3 造形物点検作業（目視点検）	適時
4 屋外遊具（パワーアスレチックハウス）点検作業（調整・動作点検）	1回/年
5 霧のステージ点検作業（調整・動作点検）	1回/年

（8）安全管理

① 安全対策の基本的な考え方

来館者の安全を確保するために、防災総合対策マニュアルを策定し、施設内での事故・災害・盗難・不正・破壊等を未然に防止します。日常的な施設の施錠開閉及び入退室者の管理を行うとともに、来館者に対する細やかな心配りにより安全を確保し、危険な事態や火災・盗難等の早期発見と拡大防止に努め、災害や事故に強い施設づくりに取り組みます。

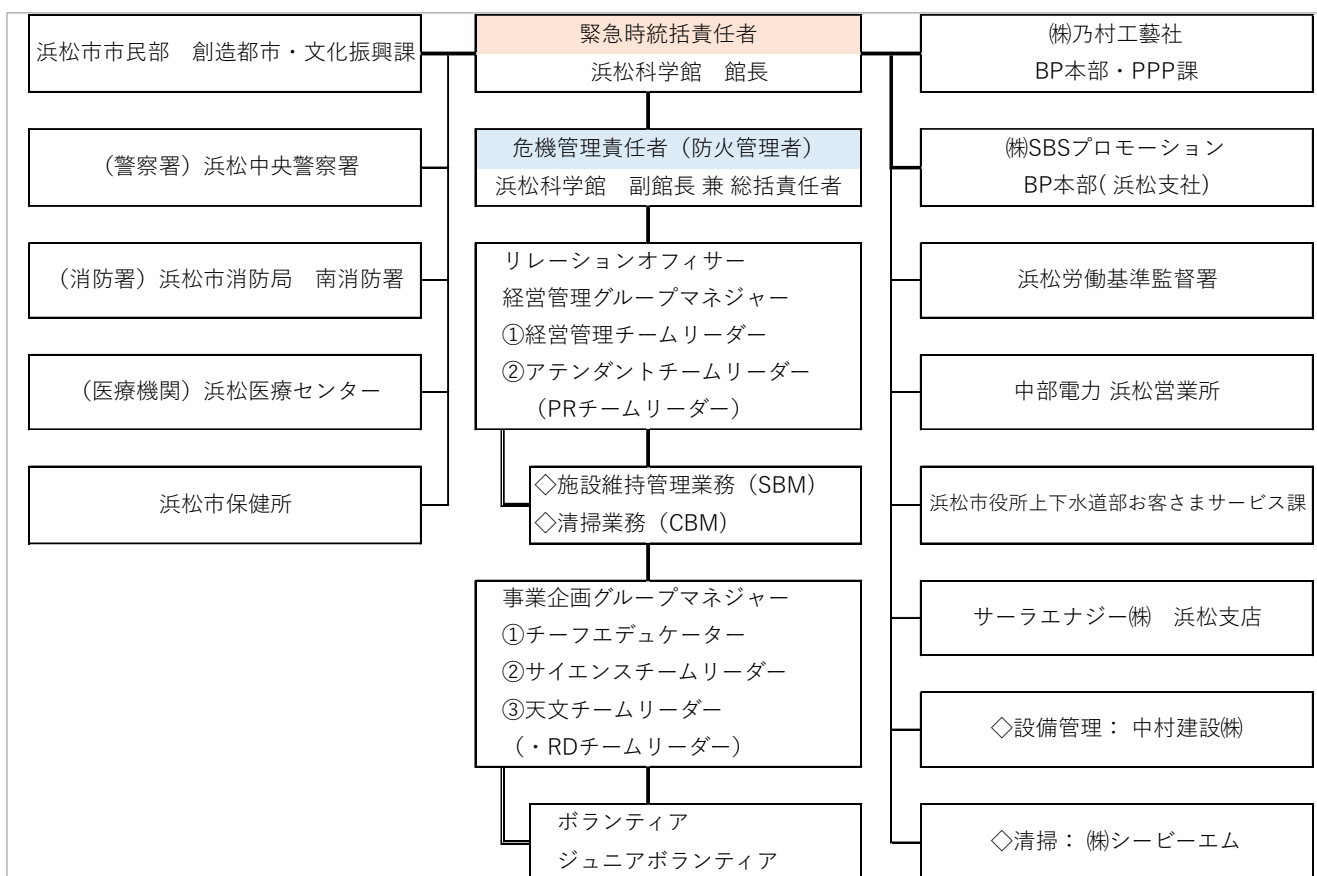
また、防災訓練（避難誘導訓練：年 2 回）と防災研修（年 1 回）を実施し、地震、風水害や火災等の災害非常時に的確な行動と体制を築くことができるよう努めます。

② 警備業務

夜間及び休館日等の職員不在時は、自動火災報知機と連動した機械警備業務を実施することで防犯及び防火体制を整えます。

③ 緊急時の対応体制

災害等の発生時には危機管理責任者を中心に連絡体制を整え、浜松市の関連部署と連携を密にした指揮命令系統をつくり、利用者の安心安全を第一に、スタッフや関係者の安全確保を含めた対応にあたります。



④ 防災対策

災害に備えて防災対策を図るとともに、本施設が被災した場合には、直ちに補修等の措置を講じ、施設の機能維持に努めます。

- ・防火管理者の選定と「消防計画」の策定
- ・自衛消防隊の編成（・隊長、副隊長、地区隊長、初期消火、通報連絡、避難誘導係、応急救護等）
- ・災害時の参集基準の設定（地震の震度や風水害の警報レベルに応じた避難、休館等の基準の設定）
- ・「危機管理マニュアル」の作成
- ・アクションカードの整備とスタッフの携行
 地震災害や火災等の避難誘導等を「アクションカード」に集約して、緊急時にスタッフが適切な行動を迅速に取る
 ことができるようにします。また、別途、マニュアルにて自衛消防隊の編成、緊急連絡網・関係連絡先一覧、緊急
 退避、閉館と参集基準、近隣防災マップ、緊急時アナウンス例（多言語）、館内フロア頃の避難誘導動線と消
 火器、消火設備配置図等の情報を共有します。
- ・緊急事態に備えた教育・訓練の実施
 - － 防災総合避難訓練（年2回）
 - － 設備・機器の取扱い教育（消火器、AED 取扱い研修を含む）
- ・防災事項や事故情報、他館で発生した事象事例等の防災情報の共有化と、職員・スタッフ各員の予防意識の
 喚起を目的に、浜松市消防局（南消防署）や危機管理課と連携して避難訓練時に実施
 - － 防災研修（年1回）
- ・文化財の保護・保全に係る消防署との連携
 - － 災害発生に備えた笹ヶ瀬隕石の取扱い方法の確認及び館内消防設備等の現地調査への協力（文化財保
 護デーにおける浜松市消防局・南消防署の視察等）

(9) 収支計画

令和6年度(2024年度) 浜松科学館 指定管理業務収支予算(展示更新事業含む)

I 収入

(金額は消費税を含む。単位:円)

区分	内 訳	金 額
A 収入合計		257,330,400
1 指定管理業務委託料	管理運営業務分140,710,900円+展示更新分48,999,500円	189,710,400
2 利用料金		62,620,000
入場料・観覧料等	常設展示・プラネタリウム等観覧料	56,969,000
特別展入場料	春、夏の特別展等入場料・企画展ワークショップ参加費	2,700,000
施設貸出使用料	ホール、セミナールーム貸室料	300,000
その他収入 (受益者負担金)	情報端末貸出料	1,000
	みらいーらカード発行料	150,000
	参加費・材料費	2,500,000
3 補助金、協賛金等	科学館サポーター会費、各種助成金等	5,000,000

II 支出

区分	内 訳	金 額
B 支出合計		257,330,400
1 事業運営業務費		61,951,500
常設展示運営費	保守点検、管理経費等	41,506,500
(新) 展示更新事業費	調査費、設計料、製作施工費等	40,056,500
常設展示保守点検費	霧のステージ、パワーアスレチックハウス保守点検料含む	1,450,000
プラネタリウム運営費	番組制作・借上料、保守点検、管理経費等	10,515,000
特別展等運営費	企画料、製作費等	6,000,000
教育普及事業費	展示消耗品、ミニワーク、サイエンスショー材料費等	3,700,000
ボランティア活動支援費	ボランティア活動支援費	230,000
2 広報業務費		9,700,000
広報費、印刷費	広告媒体費、宣材印刷費等	9,700,000
(新) 広告宣伝・プロモーション費	(新) 展示更新広報費、広告媒体費	2,000,000
(新) WEBサイト更新費	科学館ホームページ・リニューアル費用	2,500,000
印刷費、発送費等	ニュース、ポスター、紀要製作費	5,200,000
3 施設運営業務費		135,456,000
管理運営人件費	常勤・臨時職員給与等	123,900,000
運営事務費	旅費、消耗品、事務機器等借上料、保険料等	11,556,000
4 施設維持管理業務費		36,959,000
維持管理業務委託費	清掃、設備管理、保守点検等委託料	34,121,000
その他施設管理費	安全管理、修繕料等	2,838,000
5 公租公課		10,000
租税公課費	消費税、法人事業税等	10,000
6 一般管理費		13,253,900
一般管理費	バックオフィス事務経費等	13,253,900
収支 : A - B		0

(新) は展示更新事業費

4 自主事業計画

(1) 必須の自主事業

① ミュージアムショップ運営

◆ 事業方針

浜松科学館のオリジナルショップとして、事業活動と一体的に企画・運営し、来館者の科学を楽しむ心と挑戦への意欲を刺激するとともに、来館の思い出や記念になるよう利用者起点の商品展開を実施します。

また地域のアンテナショップとして、地元浜松の企業の技術や商品紹介、作家の商品販売を行い、来館者以外の方も浜松の技術に触れあえる場所とします。

◆ 概要

- ・ 営業日数：開館日と同じ
- ・ 営業時間：9:30～17:00
(7月20日から8月31日は18:00まで。イベント等での開館延長時にはその時間に合わせて営業)

◆ 販売物

事業と連動し、商品点数の多種多様化と増大を図りながら、来館者の能動的な学びを支援するグッズを販売し、オリジナル商品も開発します。

- 科学館のテーマと連動したグッズ及び地元企業関連製品の販売
 - ・ 常設展示の5つのテーマ（光、力、音、自然、宇宙）やプラネタリウムに関連した教材、実験・工作材料、書籍、文具などのグッズ
 - ・ 企業展示コーナーに出展する地元企業の技術に触れられる製品
 - ・ 実験や工作のキットや道具、材料 等
- オリジナル商品の開発と販売（下記のような商品を5種類以上品揃え）
 - ・ 地元企業の技術や製品を用いたオリジナル商品（浜松注染手ぬぐい、マグネットカードケース、ブックマーク等）
 - ・ オリジナルデザインのおみやげ（タオルハンカチ、クリアファイル、キーホルダー 等）
 - ・ 科学館キャラクターグッズの商品販売（コンパスくん、まるだしくん、ブツソラちゃん）
- 特別展及び企画展やプラネタリウムの番組と連動した商品の販売
- プリントシール機によるオリジナルシールの販売

◆ 収支計画

(税込金額：単位：千円)

区分		令和6年度（2024年度）浜松科学館 ミュージアムショップ・ガチャ・シール機 月別収支見込												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
税込金額	売上高	1,331	2,057	944	2,928	4,114	1,331	666	666	666	666	605	2,178	18,150
	仕入・諸経費	1,839	1,440	661	2,050	2,880	932	466	466	466	466	424	1,525	13,612
	粗利益	-508	617	283	878	1,234	399	200	200	200	200	182	653	4,538

② カフェ運営

◆ 事業方針

来館者の利便性に配慮した飲食サービスを提供するとともに、サイエンスライブラリー & カフェとして、図書の閲覧、絵本の読み聞かせなどにも利用できるようにします。カフェを目的として訪れる人も増えるよう、魅力ある店づくりを行います。

◆ 概要

公募により決定した浜松市内の飲食店が、浜松の旬の食材を活かした料理やスイーツ、ドリンクなどを提供します。令和6年3月から「kitchenKOPPE」が営業します。

- ・営業日：開館日と同じ
- ・営業時間：11:00～16:30（予定） ※「夜の科学館」開催時には夜間営業も実施します。

◆ メニュー

市内で人気の創作イタリア料理店「kitchenKOPPE」が、小さなお子様から高齢者まで幅広い年齢層の来館者に合わせたメニューを提供します。

- ・主なメニュー：パスタ、キッシュ、サンドイッチ、ランチセット、月替わりスペシャルカレー、ソフトドリンク、アイス 等

③ 自動販売機の設置管理

清涼飲料水等の販売を目的に自動販売機を設置します。設置台数は6台とし、下記の場所に設置し併せて容器回収ボックスを設けて適切にリサイクル処分を行います。

設置場所	台数	備考
サイエンスパーク内キッチンカーエリア	1台	清涼飲料水等
1階通用口付近	2台	〃
2階階段	2台	〃
2階キッズサイエンスランド	1台	乳飲料等

(2) 任意の自主事業

① キッチンカーのフードサービス

繁忙期等を中心に、随時、出店希望者を募集をして、屋外で楽しむことのできるフードサービスを提供します。

② 「みらいーら みなくる マーケット」の定期開催

科学館周辺地域の賑わい創出と地域の特産物等のPRを目的に、生産者や事業者が対面で商品を紹介し販売する「みらいーら みなくるマーケット」を開催します。

- ・実施予定時期：7月、10月、12月、2月(予定)
- ・実施場所：サイエンスパーク、エントランスホール 他